

住宅取得適齢期である20代後半から30代。通常は間近に迫った結婚や子供の成長を機に動き出すことが多いが、最近は单身生活そのものを楽しもうとする若者が増えている。20〜30代の単身者は住まいにどんな夢を持っているのか。

「1年ほど前から単身世帯のリフォームが目立つようになった」と話すのは、三井のリフォーム住生活研究所の西田恭子所長。現在、30〜80代の単身者のリフォーム事例を調査し、年代によるニーズの違いを分析している。

◇生活を楽しむ

若い世代では男女とも、料理などの趣味を楽しみたい、というのがリフォームのきっかけだ。都心の駅近立地の中古マンションを購入し、500万〜700万円ほどかけて改装する。30

代では近い将来、結婚する可能性もある。しかし、ずっと住み続けるかもしれない。「将来は見えなくても、ある程度の期間、今の状態が続くならばもっと快適に暮らしたい」という気持ちがいかに。今後中古流通市場が活性化すると、単身世帯の場合を想定し、収益性のある物件になるように立地やリフォーム内容をしっかりと考えている(西田氏)。

増える若者1人住まい

未来が見えますか

下

「暮らしが組合をつくり、自主的に運営していく。暮らしの質は自分でつくる」という発想だ。多世代が共同で食事を作ったり、子育てを支え合う。プライバシーを保ちながらも、一人きりではない暮らしができる。C H Cの宮前眞理子理事

「今の若い人は、将来が不安。自分が50、60、70歳に身雇用は崩れて、年金もなくなる。自分で50、60、70歳に

「個族」ゆえに求めめるもの

古住宅が選択肢に入ってきた。事業の推進役を務めるNP Oコレクティブハウジング社(=CHC)にとって4代目のコレクティブハウスは、これまで手がけた4物件の状況について、「入居者で一番多いのは30代。世帯構成では年々単身者が増え、今は半数を占める」と話す。「以前は防犯面で一人暮らしが不安でハウスの暮らしを求めている人が多かった。今は、本当にこのまま人生に対する漠然とした不安を持った人が多い」とい

「昔は、家を持つこと『家族を持つこと』だった。今は、家『個』だ。今後この流れは強まるだろう」。購入、賃貸を問わず住み替えていくのが当たり前になっていくと見る。

「迷いを解消するには他者とのコミュニケーションが欠かせない。住宅・不動産業界は、従来とは異なる単身向けビジネスモデルへの脱却が必要になりそうだ。」

「コレクティブハウスは、各世帯がキッチン、トイレ、バスが付いた独立した住戸を持ちつつ、リビングルームやキッチンといった共有スペースを持つ集合住宅。」



企業の社員寮を改装した「コレクティブハウス大泉学園」

(井川 弘子)